



ひもをつなげて長さを競う「なわながとし」ほかにも趣向を凝らした競技が続きました

## 跳んで！走って！健康に感謝

高齢者の健康づくりと交流を目的に、11月5日、農業者トレーニングセンターで第28回名和町老人スポーツ大会がおこなわれました。

この日は、名和町老人クラブ連合会の主催で、明生会(庄内)、長生会(名和)、長年会(御来屋)、楽生クラブ(光徳)の各地区老人クラブから、約300人が参加。趣向を凝らした各種競技は地区対抗戦でおこなわれ、出場者も応援席も一体となって、にぎやかに元氣よく「スポーツの秋」を満喫しました。

## ふるさと名和への思いをはせながら交流会

名和町出身者で関西在住の方で構成される「名和町関西ふるさと交流会」のみなさんが、11月14日に第2回の交流会を開きました。

当日は、会員のみなさんと町関係者37人が参加。今回の総会で、会長が山岸忠雄さんから山根博恭さんに交代し、全会一致で了承された後、懇親会が開かれました。

懇親会では、出席者全員が自己紹介した後、鳥取市の「わらべ館」でも演奏されたことのある杉原邦男さんのアコーディオン演奏にあわせて、参加者全員が手をつなぎながら「ふるさと」を歌いました。

なお、「名和町関西ふるさと交流会」では、会員を募集しています。入会を希望される方は企画財政課(54-5202)までお問い合わせください。



会長就任あいさつをする山根博恭さん

第2回名和町関西ふるさと交流会



懇親会では、自己紹介や近況報告をおこない、なごやかに楽しいひとときを過ごしました

## どれも趣のある作品ばかり

11月13日から21日まで、公民館展示室で書道展が開かれました。

これは、御来屋みどり区にお住まいの船原濤軒さんの作品と、船原さんの指導のもと活動している公民館サークル「名和書道クラブ」のみなさんの作品を展示したものです。

訪れた人たちは、作品のひとつひとつをじっくりと見入っていました。



書いた人の性格や人間性を感じ取ることができるのも、書道のおもしろさです

## 自慢の郷土料理を披露

人権交流センターの識字学級のみなさんが、10月28日、外国から日本に嫁がれた方への日本語指導や書道指導と交流を主に活動している「米子識字・日本語教室」と、2回目の交流会を開きました。

交流会には約40人が参加。みんなでタイ料理やフィリピン料理を作り、ふるさとの食文化を披露しながら会食をおこないました。センターで収穫したモチ米を使ったきなこ餅も大好評で、なごやかな雰囲気の中交流を深め、楽しいひとときを過ごしました。



「おいし〜い!」「材料はどこに売ってる?」ごちそうを食べながら、話に花が咲きました

## 友好都市・名和町をPR

友好都市である広島県呉市の秋の一大イベント「くれ食の祭典」が、11月6日・7日の2日間、市内のれんがどおりと蔵本通りを会場におこなわれました。

名和町からは、11月7日に開かれた『集いの広場交流都市物産フェア』に、神田りんご生産組合・名和グリーンカルチャークラブ・名和名産会のみなさんなど12人が参加。りんごやそば、名和町の特産品等の販売をおこないました。

当日は好天に恵まれ、会場は約10万人の人出でにぎわいました。中でも神田のりんごは午前中に完売するほどの大盛況でした。また、物販を通して呉市民のみなさんとの交流を深め、友好都市「名和町」をPRしました。

呉市と名和町が友好都市提携を結んで9年。今年は名和町の「健康ふるさと祭」にも、くれ肉じゃがの会のみなさんに参加していただき、お互いに訪問し合って友好を深めることができました。みなさんも、機会があればぜひ呉市を訪れてみてください。

2004 くれ食の祭典



りんごは午前中で完売。特産品を買い求める人との間に、様々な交流がありました



グリーンカルチャークラブの手打ちそばも、呉市民のみなさんに大好評でした





民踊クラブのみなさんの華麗な踊り

## 活動の成果 十分に発揮

11月21日、名和町保健福祉センターで、公民館サークル発表会（ステージ発表の部）を開きました。

これまで公民館の講堂で発表をしていましたが、今年から名和町保健福祉センターの多目的ホールでの発表会となりました。広い会場には、たくさんの人たちがつめかけ、ステージでの円熟した歌や踊り、実演、演奏などに熱い歓声や拍手を送っていました。

みなさんも、興味のあるサークルにご参加ください。お待ちしております。



詩吟の会のみなさんの朗々とした声が響きました



空手同好会のみなさんは、力強い技を披露

紙面の都合により、一部のサークルしか紹介できませんでしたが。

## 目をかけ手をかけ 心をかけて

11月26日に、庄内保育所で“親学”講座が開かれ、米子市の知的障害児通園施設「あかしや」の前園長池田千鶴枝さんが、『子どもたちと生活習慣～いま、親にできること～』というテーマで講演をされました。

池田さんは「子育ては、目をかけ、手をかけ、心をかけてするもの」と強調。そして、「最近の子どもの中には、体力と集中力がない場合がありますが、それをなくすには、食べることに寝ることに、そして良い親子関係であることが大切です」と話されました。



保育士としての経験談を交え、子育てのあり方について分かりやすく話してもらいました

## “親学”講座

## 福祉の心は母ごころ

11月26日、ことぶき学級が開かれました。

今回は、「福祉の心は母ごころ」というテーマで、日吉津村教育長の遠藤量さんのお話を聞きました。遠藤さんは、歌やゲームをまじえて、介護保険や気分転換の方法について楽しく話してくださいました。

学級生のみなさんは、今後の生活に活かすべく、熱心に聞いていました。



教育長就任前の、福祉施設勤務当時の経験を交えながら講演をする、遠藤日吉津村教育長

## アジアの子どもたちのために

庄内小学校の5年生が、11月7日に開かれた学習発表会で、自分たちが栽培したもち米を販売し、その売上金を日本赤十字社鳥取県支部に贈呈しました。

きっかけは、池田香代子さんのベストセラー小説『世界がもし100人の村だったら』で、子どもたちは学習発表会でこの作品をシナリオにして発表しました。視野を国際社会に向け、私たちが普段なんとなく見過ごしている世界の子どもたちの現状に視点を当てた内容で、参観のみなさんからも「目からウロコ。いろいろと考えさせられた」などの感想が寄せられました。

この学習を通じて、世界には、戦争や飲料水・文房具などいろいろな問題から学校に行けない多くの子どもたちがいることを学び、自分たちにできることはないかと相談した結果、社会科の農業学習の一環として栽培し、収穫したもち米の一部を学習発表会の後で販売し、援助することになりました。

用意したもち米は、多くの方の協力であっという間に完売。寄贈された32,550円は、ネパール、アフガニスタン、フィリピン、モンゴル、バングラディッシュなどの子どもたちの教育支援に役立てられます。

# イキイキネットワーク 話題を追って



私たちが作ったもち米はいかがですか！ご協力、よろしくお願いま～す!!



協力いただいたお金は、11月17日に日本赤十字社鳥取県支部に贈られました。

## 町づくり成人講座



大切な人への思いを込めて…。一文字づつ、ていねいにカードを書き上げていきます

## クリスマスカードづくり

11月18日、公民館の町づくり成人講座として、カリグラフィー体験講座を開講しました。

2回目となる今回は、講師に大口由香利さんを迎え、クリスマスカードを作りました。

前回のメッセージカード作りよりも文字数が多かったため、時間がかかりましたが、最後には、素敵なカードができました。